

## 投資される国の研究 ～米国・インド・中国・日本の検討～

国際貿易投資研究所 客員研究員 朽木昭文氏

### 投資の誘因ーインドの person 費はアメリカの 10 分の 1

JETRO がずっと継続して行っております長期関連コスト比較では、工業団地と賃金について少し細かく見ていきたいと思ひます。

投資環境・アメリカ

(単位：US\$月額)

	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
フェニックス	3,575	7,627	10,573	3,870	9,473	260	29	55
ヒューストン	3,983	8,783	11,340	3,768	10,282	314	30	49
デトロイト	3,795	7,424	9,878	3,907	10,188	54	14	26
アトランタ	3,393	7,327	9,881	3,892	10,404	189	17	183
平均	3,687	7,790	10,418	3,859	10,087	204	23	78

上表はアメリカのフェニックス、ヒューストン、デトロイト、アトランタでのワーカーの賃金、エンジニアの賃金、中間管理職の賃金、スタッフの賃金、マネージャーの賃金、工業団地購入価格、工業団地借料、事務所賃料を比較したものです。ワーカー・一般工職の平均は 3687 \$、エンジニア(中堅技術者)の平均は 7790 \$ で一般工職の 2 倍強、中間管理職(課長クラス)は 10418 \$ で一般工職の 3 倍弱となっています。工業団地は当然ながら購入が高く借りれば安いという結果です。

投資環境・インド

(単位：US\$月額)

	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
チェンナイ	277	546	1,270	576	1,440	51	3	10
ムンバイ	469	768	1,677	722	1,584	28	5	30
ニューデリー	281	516	1,194	585	1,644	49	5	26
ベンガルール	424	538	1,320	572	1,414	45	4	24
平均	363	592	1365	614	1521	43	4	23

これをインドについてみますと、チェンナイ、ムンバイ、ニューデリー、ベンガルールのワーカー(一般工職)の平均は 363 \$ でアメリカの 10 分の 1 になります。ワーカーだけ見ると、インドに投資ということになりますが、ビジネス環境という意味で見ると、そこが違ふということが重要な点になります。上表からはエンジニアはワーカーの 2 倍とまではいっていないし、中間管理職にしても 1365 \$ ですかかなり安くなっています。工業団地の購入も 43 \$ (1 平米)で安くなっています。したがって、上表にある要素だけが投資要因にはならないということです。

投資環境・中国・香港・台湾		(単位：US\$月額)						
	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
広州	721	1,013	1,662	1,662	2,888	101	33	11
武漢	460	832	1,594	1,254	2,184	70	2.23	10.2
重慶	685	1,045	1,458	1,083	2,012	102	2.37	11
深圳	415	519	1,036	1,024	1,987	262	2.42	19
上海	832	1,434	2,217	1,291	2,625	203	6	43
平均	623	969	1,593	1,263	2,339	148	9	19
北京	970	1,119	1,946	1,455	2,855	306	5.22	99.5
台湾	1,212	1,586	2,264	1,490	2,479	3,606	8.53	12.49
香港	2,138	3,536	4,889	2,639	4,556	7,216	19	201
平均	1,440	2,080	3,033	1,861	3,297	3,709	11	104

## 中国のワーカーの平均賃金はインドの倍

中国を見ますと、広州、武漢、重慶、深圳、上海のワーカーの平均は 623 \$ でインドの倍くらいです。エンジニアは 969 \$、中間管理職は 1593 \$ となっています。しかし、北京、台湾、香港は先に述べたエリアとは大きく違っています。特に台湾、香港は工業団地の購入は間違えではないかと思うほど、高くなっています。

投資環境・ASEAN		(単位：US\$月額)						
	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
バンコク	385	663	1,884	744	1,642	181	6.07	24.5
ジャカルタ	407	614	1,353	590	1,470	250	5.1	18.1
平均	396	639	1,619	667	1,556	216	6	21

## アセアンの中間管理職は中国を若干上回る

アセアンにつきましては、バンコク、ジャカルタのワーカーの平均が 396 \$ で、インドの平均よりも若干上回っています。エンジニアは 639 \$ でインドの平均より若干高く、中国(広州、武漢、重慶、深圳、上海)の平均よりも安いですが、中間管理職は中国(広州、武漢、重慶、深圳、上海)よりも高くなっています。

投資環境・中南米		(単位：US\$月額)						
	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
メキシコシティ	638	1,631	3,737	1,613	4,283	628	6.9	21
ティファナ	742	2,065	4,318	1,455	4,001	207	8.6	22
リオデジャネイロ	598	3,492	4,391	665	4,050	59	3.8	24
サンパウロ	634	3,714	4,689	705	4,327	1216	4.6	41
平均	653	2,726	4,284	1,110	4,165	528	6	27

中南米のメキシコシティ、ティファナ、リオデジャネイロ、サンパウロのワーカーの数字は近いものになっていて、エンジニア 2726 \$、中管理職 4284 \$ は、今まで出た中ではアメリカに次いで高くなっています。

## 世界の中の日本の現実－米国の管理職の賃金は日本の3倍を超える

下はこれまでの表を1つの表にまとめ比較しました。

主要都市 月額賃金の比較

(単位：US\$月額賃金 2022年)

	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
デトロイト	3,795	7,424	9,878	3,907	10,188	54	14	26
チェンナイ	277	546	1,270	576	1,440	51	3	10
バンコク	385	663	1,884	744	1,642	181	6	25
広州	721	1,013	1,662	1,662	2,888	101	33	11
ティファナ	742	2,065	4,318	1455	4,001	207	9	22
香港	2,138	3,536	4,889	2,639	4,556	7,216	19	201
福岡	1,947	2,412	3,114	1,718	3,175	160	3.7	32

投資環境

(単位：US\$月額)

	ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー	工業団地	工業団地	事務所賃料
	一般工職	中堅技術者	課長クラス	一般職	課長クラス	購入価格	借料	
米国	3,687	7,790	10,418	3,859	10,087	204	23	78
インド	363	592	1,365	614	1,521	43	4	23
ASEAN	396	639	1,619	667	1,556	216	6	21
中国	623	969	1,593	1,263	2,339	148	9	19
中南米	653	2,726	4,284	1110	4,165	528	6	27
台湾・香港・北京	1,440	2,080	3,033	1,861	3,297	3,709	11	104
福岡	1,947	2,412	3,114	1,718	3,175	160	3.7	32

主要都市の比較でワーカーをみると、チェンナイ（インド）の277\$に対してデトロイト（米国）は3795\$で13倍強です。バンコク（タイ）は385\$でチェンマイを上回ります。広州は721\$でバンコクの約1.8倍、ティファナ（メキシコ）は742\$でバンコクの約1.9倍であり差はありません。また香港は2138\$で、福岡の1947\$よりもやや高くなっています。

エンジニアについては、ワーカーよりも当然高くなっています。

デトロイトはどの職種においても高額ですが、アメリカの1人当たりの所得は2023年で86000\$です。日本の1人当たりGDPは33000\$で、今年（2024年）は円安の関係で相当下がることになると思います。ですから、日本はアメリカの半分以下の所得であり、韓国よりも下にあるという認識が非常に重要だと思います。

ワーカーを国別の平均で見っていきますと、アメリカ3987\$、インド363\$、ASEAN396\$、中国623\$、中南米653\$、台湾・香港・北京1440\$、福岡1947\$となっています。インドとASEANが近い額、そして中国と中南米が近い額になっています。エンジニアと中間管理職については、当然アメリカが高いのですが、中南米が台湾・香港・北京と福岡を上回っており、中間管理職で目立つのはインド、ASEANのアップ率が2倍以上になっていることです。

以上